研 究 会 開 催 通 知

(昭和52年8月15日～9月30日)

研　究　会	日	時	会　場	備　考
計算言語学	9月2日(金)	14：00～17：00	機械振興会館	下記参照
データベース管理システム	9月8日(木)	14：00～17：00	同　上	同　上
システム性能評価	9月9日(金)	14：00～17：00	同　上	同　上
マイクロコンピュータ	9月14日(水)	14：00～17：00	同　上	同　上
イメージ・プロセッシング	9月20日(火)	14：00～17：00	リモートセンシング技術センター	同　上
コンピュータ・ネットワーク	9月21日(水)	14：00～17：00	機械振興会館	同　上
ソフトウェア工学	9月21日(水)	14：00～17：00	同　上	同　上
人工知能と対話技法	9月22日(木)	14：00～17：00	同　上	同　上
医療情報処理	9月27日(火)	13：30～17：00	同　上	同　上
計算機アーキテクチャ	9月27日(火)	14：00～17：00	同　上	同　上

◆ 第11回　計算言語学研究会

(主査：和田　弘，代表幹事：西村恕彦，長尾　真，野崎昭弘)

日　時　昭和52年9月2日（金）午後2時～5時

会　場　機械振興会館　地下3階1号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8，地下鉄：日比谷線神谷町駅，都営1号線大門駅，都営6号線御成門駅下車，国電：浜松町駅下車，バス：新橋―渋谷線東京タワー，等々力―東京駅八重洲口飯倉1丁目下車，Tel. 03 (434) 8211〕

議　題　(1)　構文統計について　　木村睦子（計量計画研究所）

〔概要〕　実際の日本語文資料に基づき，二項規則からなる構文規則を作成し，構文規則の出現率並びに一段下のレベルへの規則間の推移確率等を調査した．

(2)　日本語品詞列集成について

西村恕彦（電総研），荻野綱男（東大・文）

〔概要〕　国語研究所の新聞語彙調査データでは，各短単位に対して品詞コードが付けられている．これを利用して，品詞パターンの用例付き索引を作り，オフセット印刷にした．これは，日本語の文章における，品詞のかかりうけや構文などの研究のための基礎資料として，有効であろう．

◆ 第3回　データベース管理システム研究会

（主査：穂鷹良介，代表幹事：植村俊亮）

日　　時　昭和52年9月8日（木）午後2時～5時

会　　場　機械振興会館　地下3階1号室〔所在地は前記参照〕

議　　題　（1）　DMS-II について　　前田耕一（バローズ）

〔概要〕 バローズ社のデータベース・モデルシステムである DMS-II について，その設計思想，および機能概要と特徴を述べる．

（2）　IMAGE について　　沖本重之（横川 HP）

〔概要〕 IMAGE はファイルを統合して情報の無駄を除去できる完成されたデータベース管理システム用パッケージである．

（3）　INQ について　　後藤龍男（日電）

〔概要〕 複合条件に対する検索の高能率化および導入運用の容易性を目標に開発された INQ について．その設計思想と特徴的機能を述べる．

◆ 第20回　システム性能評価研究会（主査：石田晴久，代表幹事：斉藤栴郎）

日　　時　昭和52年9月9日（金）午後2時～5時

会　　場　機械振興会館　地下3階1号室〔所在地は前記参照〕

議　　題　（1）　性能評価用ツール QM-1 について

紀　一誠，本郷喜裕，松田敏男（日電）

〔概要〕 解析的な手法を用いた性能評価用ツール QM-1 について，その考え方，使用法，実積，反省点等について示す．

（2）　多重プログラミングシステムにおけるフィードバック概念に基づく，一般資源管理方式　　西垣　通（日立・シ研）

〔概要〕 多重プログラミングにおいて，スループットとレスポンスとをバランスよく向上させるためにはフィードバック概念に基づく制御が有効である．本講演ではフィードバック制御の手段を実メモリ，チャンネル，CPU 等を含めた各種資源のスケジューリングに拡張するための一般的方策を提案する．

◆ 第2回　マイクロコンピュータ研究会（主査：森　亮一，代表幹事：田島守彦）

日　　時　昭和52年9月14日（水）午後2時～5時

会　　場　機械振興会館　6階65号室〔所在地は前記参照〕

議　　題　（1）　コボル用高級言語マシンについて

中崎良成，山本昌弘，箱崎勝也，植村　謙，横田　実（日電）

〔概要〕 コボル用高級言語マシンのアーキテクチャとハードウェアの構成について紹介する．

（2）　パーソナル・コンピューティングの現況と将来

安田寿明（電機大）

〔概要〕 1. パーソナル・コンピューティングの展望，2. ハードウェア，3. ソフトウェア

（3） トレーニングモジュールの機能設計　　西野秀毅（日立）

〔概要〕 トレーニングモジュールの機能設計におけるハード，ソフトの両面にわたるいくつかのトピックスについてのべる．

マイクロコンピュータ研究会発表論文募集：本学会会員の方々から発表論文を広く募集することになりましたので，研究会にて論文発表を希望される会員は，主題およびアブストラクト（300 字以内）を付し，学会事務局（研究会担当）までお申出ください．

◆ 第 14 回　イメージ・プロセッシング研究会

（主査：尾上守夫，代表幹事：長尾　真，白井良明，高木幹雄）

日　時　昭和 52 年 9 月 20 日（火）午後 2 時～5 時

会　場　リモートセンシング技術センター　会議室

〔東京都港区六本木 7-15-17，ユニ六本木ビル 7F，地下鉄：日比谷線六本木駅下車渋谷に向かって徒歩 5 分　Tel. 03 (463) 1761〕

議　題　（1） エッジ検出の一方法　　木戸出正継（東芝・総研）

〔概要〕 微分操作を基本としたエッジ検出のアルゴリズムとその実験結果を示す．ハードウェア化の可能性についても検討を行う．

（2） NOAA IP Data による海面温度分布画像の作成

向井幸男（リモートセンシング技術センター）

〔概要〕 NOAA の赤外放射計により観測したデータから日本東北部周辺の海域をカバーする画像を作成し，観測時の表面水温分布図を参考にしながら，上記画像の海面温度分布画像を作成した結果を報告する．

◆ 第 12 回　コンピュータ・ネットワーク研究会

（主査：高島堅助，代表幹事：大島　裕）

日　時　昭和 52 年 9 月 21 日（水）午後 2 時～5 時

会　場　機械振興会館　6 階 66 号室〔所在地は前記参照〕

議　題　（1） SNA のフォーマットとプロトコル

小笠原謙蔵（日本アイ・ビー・エム）

〔概要〕 SNA はメッセージ・フォーマットとプロトコルにより規定されるデータ通信システムの構造概念である．ネットワーク・システムとして，ハード／ソフト製品が組み合わされる際，それらは一貫した概念によって結合される．ここでは SNA の基本となるメッセージ型式とプロトコルについて説明する．

（2） プロトコル記述法の一検討

友永充宏，阿部豊彦，宮沢正幸，河岡　司（電電・横須賀通研）

〔概要〕 コンピュータ・ネットワークにおける通信の同期動作を分り易く表現するためのプロトコル記述法（ペトリネットの考え方をとり入れた）について述べる．

（3） 標準パケット網プロトコル X･25 を用いたプロセス間通信

小野欽司，浦野義頼，鈴木　健（国際電電・研究所）

〔概要〕 X･25 を用いた 2 つの通信プロセッサの間で，バーチャル・コール

によるパケット交換モードのプロセス間通信の実験を行っているので，その概要を報告する．

◆ 第3回　ソフトウェア工学研究会

（主査：国井利泰，代表幹事：佐藤信男，大野侑郎，原田賢一）

日　　時　昭和52年9月21日（水）午後2時～5時

会　　場　機械振興会館　6階65号室〔所在地は前記参照〕

議　　題

（1）　トップダウン・プログラミング言語 SPL におけるモジュール概念について　　野木兼六，中所武司，中田育男，林　利弘（日立）

〔概要〕　トップダウン設計手法，モジュール化手法，データ型の抽象化手法などと，SPL におけるモジュール概念との関連を中心に SPL の設計思想を述べる．

（2）　SPOT-6：高信頼性ソフトウェア開発のための言語システム　　岩元莞二，紫合　治，藤林信也（日電）

〔概要〕　プログラミング方法論の言語化，表現の高水準化及びプログラミング標準の言語化を通して，中大形ソフトウェアの信頼性向上と開発保守の効率化を狙った新しい言語システム SPOT-6 の概要を述べる．

（3）　通信制御ソフトウェア開発におけるプログラマ個人差の分析　　田村悦夫（富士通）

〔概要〕　個人別バク状況データなどの分析をもとにプログラマの個人差の傾向とこれを吸収する具体策について述べる．

◆ 第1回　人工知能と対話技法研究会

（主査：田中幸吉，代表幹事：木村文彦，白井良明，田村進一）

日　　時　昭和52年9月22日（木）午後2時～5時

会　　場　機械振興会館　6階65号室〔所在地は前記参照〕

議　　題

（1）　隠れ線つき透視図を理解するための言語　　杉原厚吉（電総研）

〔概要〕　3次元は物体が隠れ線つき線画にあたえる局所的および大域的制約について調べ，線画の解釈に応用する．

（2）　第5回 IJCAI に出席して　　長尾　真（京大・工）

（3）　第5回 IJCAI に出席して　　古川康一（電総研）

◆ 第18回　医療情報処理研究会

（主査：開原成允，代表幹事：上野晴樹，佐々木陽，飯坂譲二，稲田　紘）

日　　時　昭和52年9月27日（火）午後1時半～5時

会　　場　機械振興会館　6階66号室〔所在地は前記参照〕

議　　題　MEDINFO 77 の総合報告．この研究会は日本 ME 学会医用ソフトウェア研究会と共催します．

（1）　病院管理　　三宅浩之（関東逓信病院）

（2）　臨床医学へのコンピュータの応用　　佐々木陽（大阪府立成人病院）

（3）　公衆衛生　　八坂敏夫（PL メディカル・データ・センター）

（4） 診断理論　　稲田　紘（阪大・医）
（5） ICU, 検査室, 放射線関係　　加藤俊夫（阪大・医）
（6） 教　　育　　会田一夫（東芝）
（7） 医療情報システムの新技術と評価　　上野晴樹（電機大）

◆ 第28回　計算機アーキテクチャ研究会（主査：相磯秀夫，代表幹事：所真理雄）

日　　時　昭和52年9月27日（火）午後2時～5時
会　　場　機械振興会館　6階65号室〔所在地は前記参照〕
議　　題
（1） Distributed Processing Workshop の報告　　前川　守（東芝）
（2） IFIP '77 報告　　相磯秀夫（慶大）
（3） COMPCON FALL '77 報告　　所真理雄（慶大）

「システム性能評価法」講習会の申込みについて

来る9月21日（水），22日(木）に都道府県会館で標記講習会を開催します．定員 160名，申込み締切りを9月10日といたしますので，前号本欄の会告を参照のうえ，早目にお申込みください．

欧文誌の論文募集について

既報の本年1月号および7月号の記事に訂正があります．

4.　論文原稿の書き方　（2）の内容が

（2） 査読の都合上，タイトル，氏名，所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する．なお和文アブストラクトは次による．

（i） Paper のアブストラクト――「情報処理」1ページ以内に収まるよう学会誌原稿用紙312字／枚×6枚以内にまとめる．

（ii） Short Note のアブストラクト――200字以内にまとめる．

とあります．つぎのように訂正いたします．

（2） 査読の都合上，タイトル，氏名，所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する．

（i） Paper のアブストラクト――200語以内．

（ii） short note のアブストラクト――50語以内にまとめる．（なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする．）

NCC '78 のお知らせ

1978 年の NCC (National Computer Conference) は "Computer Industries Solution to Resource Limitations of the World" with Special Emphasis on Energy という主テーマのもとに下記のとおり開催されることになりました．次回の NCC には，わが国特有の情報処理技術に関連する研究成果を発表するセッション "Japan Area" が設けられることになりました．会員の皆様にもどうぞ奮って御参加下さいますようお願い申し上げます．

記

1. **開 催 日**：昭和 53 年 6 月 5 日 (月)～8 日 (木)
2. **開 催 場 所**：米国カリフォルニア ANAHEIM
3. **論文締切り**：昭和 52 年 10 月 21 日 (金)
4. **国内問い合わせ先**：慶応義塾大学工学部　相磯秀夫　Tel. 044 (63) 1141 内線 3320

Call for Participation

You are invited to participate in the 1978 National Computer Conference.

HOW TO PARTICIPATE IN NCC '78

1. Write a paper for review.
2. Prepare a demonstration of a new or valuable application.
3. Prepare a short talk for an open information exchange.
4. Send us your ideas on topics you would like to hear about at NCC '78.

TOPICS (NOT EXHAUSTIVE)

People and Society

Legislation and its Impact
Regulatory Policy and its Impact
Computing Careers and Education
Recruiting, Training and Staffing
Privacy, Security and Computer Abuse

Applications

EFTS
Office Automation
Image Processing
Artificial Intelligence
Special Purpose Terminals and Systems; e.g. Retail, Banking, Supermarket, Gaming, etc.
Design Automation and Graphics
Computers Embedded in Other Products
Small Business
Process Control
Decision Support Systems
Data Entry
Personal Computing

Methodology and Techniques

Software Project Management
Software Tools and Techniques
Programming Methodology
DP Planning and Administration
Performance Measurement and Evaluation
DP Productivity Aids
Automatic Programming

Systems

Computer Architecture
Impact of New Hardware Technology
Distributed Systems
Data Networks and Communication
Data Base Systems
Operating Systems
Programming Languages and Translators

Deadline for all submissions is October 21, 1977. Authors will be notified as soon as possible and no later than March 1, 1978 regarding acceptance. Please send your submissions to:

Mr. Stephen W. Miller
CONFERENCE CHAIRMAN
Stanford Research Institute
333 Ravenswood Ave., L 1109
Menlo Park, CA 94025

or

Dr. Leonard Y. Liu
PROGRAM CHAIRMAN
IBM Research Laboratory
K51/282
5600 Cottle Road
San Jose, CA 95193

See Paper Guidelines →

PAPER GUIDELINES

Previously unpublished papers are solicited. Papers submitted for consideration must be in final form with quality figures and tables ready for typesetting. All papers will be refereed. It is anticipated that refereed and approved papers will be sent to the printer with no additional opportunities for author changes. The Conference Proceedings Editors reserve the right to edit all papers prior to publication or to request that the authors change them to meet AFIPS publication requirements. Both short papers (up to 2500 words) and long papers (approximately 5000 words) will be considered.

The material submitted should include:

1. Six copies of the paper. The submitted paper should be in final form—cleanly typed, double spaced on one side of the paper and ready for typesetting. Each page should be numbered and have the principal author's name on it. Submission of a paper implies guarantee by the author that all necessary approvals and clearances for publication have been obtained.

2. Six copies of a title page containing a title, 150-word abstract, four to six keywords descriptive of the content of the paper, author's affiliation, telephone number and mailing address.

DEMONSTRATION GUIDELINES

Video-tapes, films, or real-time demonstrations will also be considered. Demonstrations should describe a new or valuable application, illustrate its usage and report on its impact. Demonstrations which are clearly advertisements will **not** be accepted. Please send us an abstract (less than 500 words) describing your demonstrations.

INFORMATION EXCHANGE GUIDELINES

The information exchange is intended to provide a forum for those who want to describe their work, but do not have time to write a paper for review. Talks will be selected on the basis of the relevancy of the topic. Please send us an abstract (less than 500 words) describing a 5-10 minute talk you would like to present and indicate the major topic of your talk in the title. Abstracts of the selected talks will be made available at the information exchange, but will not be published.

IDEA GUIDELINES

Please send us a list of topics you would like to hear about in the NCC Program, e.g., a tutorial on artificial intelligence, a survey of graphics terminals, a discussion of recruiting problems.

第3回日米コンピュータ会議（3rd UJCC）の開催について

すでに5月の通常総会でご了承の通り，1978年9月19日～21日にハワイで，第3回日米コンピュータ会議を本学会と AFIPS（米国情報処理学会連合）で共催いたします．詳細については決定次第，本欄で紹介いたしますが，論文発表（論文〆切は1月末の予定）ならびに参加等について，準備されますようご案内いたします．

情報処理学会第18回全国大会についてのお知らせ

一般参加の方へ

1. **受付**

講演会場の都合で，つぎの通り受付けをいたします．

	3日(月)		4日(火)		5日(水)	
	a. m.	p. m.	a. m.	p. m.	a. m.	p. m.
第3新館（全体会場）	○	○	○	○	×	×
南棟(セッション会場)	×	×	×	×	○	○

第1日，第2日は，全体会場，第3日は南棟セッション会場．

2. **参加費** 会　員　1,000 円（賛助会員は1口1名として正会員に準じます．）
非会員　1,500 円
3. **論文集代** 定　価　5,000 円（予約価　4,000 円）
（当日予約者以外にお頒けできるのは，残部のある場合に限ります．）
4. **論文集予約** 予約（9月17日締切）を原則としますので，本号綴込みの申込書をご利用ください．
5. 参加される方は，一般受付にて参加費を納め，参加章を受けとってください．会期中は，参加章を胸につけないと会場に入れません．

一般講演を行う方へ

1. 講演者は，講演の始まる前に，必ず各セッション会場前の講演者受付で，出席の確認を受けてください．
2. 講演者は，おそくとも自分の前の講演者の講演時間中には，座長席の前に設けられた「講演者控」で待機するようにしてください．
3. 一般講演の時間は，質疑を含めて，15 分を原則とします．（都合により 14 分のセッションもありますのでお含みください．）従って時間内に充分に講演の主旨を伝えられるように，事前の準備をお願いします．講演中でも時間がくれば打ち切ります．
4. 講演終了予定時刻の5分及び2分前に座長補佐がベルで合図します．
5. 講演の代読はさけてください．
6. 補助教具として，OHP が使えます．OHP に使う原図は．B5判程度の透明用紙に，説明の文字や線・点はなるべく簡潔に書き，よく判読できるよう準備してください．なお，掛図（3枚以内）は，各自黒板にマグネットで止めて下さい．

その他一般注意

1. 大会期間中は，大学は休講中ですので，食堂と電話は，つぎのように特別に配慮いたします．
   ① 昼食には学内食堂と売店が利用できます．
   ② 真に止むをえない呼び出しの場合のみ，次の臨時電話が利用できます．
   全体会場　Tel. 03(726)0076，セッション会場　Tel. 03(726)0075
2. 自家用車による一般の参加は駐車場がありませんから厳禁します．